

TAS PROGRAM DISCUSSION

TAS 座談会

専門知識×応用力で税務のスペシャリストに!

税務および会計に関する高度専門職業人の養成を目的とするTASプログラム。税理士志望や、企業の税務・管理部門での活躍をめざす学生を対象としています。税理士試験科目の免除申請に対応したカリキュラムで資格取得をサポートしつつ、法学・経済学・会計学など多様なアプローチから税務について学修し、実践力がつく点が特徴です。

TASプログラムの担当教員と履修生にお集まりいただき、関西大学大学院商学研究科の魅力、研究の面白さ、後輩へのメッセージなどについて聞きました。



関西大学大学院 商学研究科 担当: 租税論 石田 和之 教授
 関西大学大学院 商学研究科 担当: 会計制度論 齊野 純子 教授
 関西大学大学院 商学研究科 担当: 租税法 辻 美枝 教授
 関西大学大学院 商学研究科博士課程 前期課程 1回 天野 陽子 さん
 関西大学大学院 商学研究科博士課程 前期課程 1回 工藤 晴也 さん
 関西大学大学院 商学研究科博士課程 前期課程 1回 鈴木 美菜乃 さん
 関西大学大学院 商学研究科博士課程 前期課程 1回 中村 あかり さん
 関西大学大学院 商学研究科博士課程 前期課程 1回 八木 勇哉 さん

齊野先生: それでは、TASプログラム座談会を開催します。本日は、2023年春に入学した皆さんに集まっていたきました。1年目の学びを通じて、聞いていきたいと思っています。

大学院に進学した理由は?

天野さん: 私は短大を卒業後、社会に出て経理の仕事に就きました。そこで数字の面白さに気づき、もっと専門的に学びたいと考えたことが進学の一きっかけです。

工藤さん: 大学院に進学したのは、資格取得だけの勉強に限らず、しっかり税法の読解力と実践力を身につけたいと考えたためです。

鈴木さん: 私は数学が好きなので税理士になろうと思ったこと、また税理士試験の科目免除制度を利用したいと考え、大学院に進学しました。

中村さん: 「社会人として長く働くなら土業がいい」と考え、仕事をしながら税理士試験に挑んでいました。はじめは早く合格しなければと思っていたのですが、出産・育児を経て「しっかり履修をす

えて勉強しよう」と、考え方をチェンジしたんです。そこで、より専門的かつ幅広く学べる大学院進学を希望しました。

八木さん: 税理士である父にならいたいと考え、進学しました。なるべく早く税理士として活躍したいので、卒業したらできるだけ早く税理士登録をしたいと思っています。

関西大学院商学研究科を選んだ決め手

天野さん: 現役時代から憧れの存在だった関西大学大学院で学びたかったこと、税法科目の免除に対応している数少ない大学院だったことから選びました。

工藤さん: 私は関西大学商学部出身なのですが、2022年にTASプログラムが商学研究科に導入されたことを知り、「これはすごい縁だ!」と考え進学を決めました。

鈴木さん: 私も工藤さんと同じく関西大学商学部出身で、4年次に所属していたゼミの先生に進学を相談した際、TASプログラムをはじめ商学研究科に強く惹かれたことが理由です。

中村さん: 法学部出身なのでついていけるか不安だったのですが、先生にお話をうかがって 頑張れそうだなと思ったことが、選んだきっかけです。また育児をしながらの通学になるので、自宅から通いやすかった点も決め手の一つです。

八木さん: 私も関西大学商学部で、ゼミの先生に勧めていただけて進学を決めました。

研究テーマと概要

天野さん: 相続人が相続した財産を譲渡した際、



所得税が課されるのですが、その関係について研究しています。

工藤さん: 国際税分野における「外国子会社合算税制」です。外国に子会社を設立した企業が、それを利用して日本の税収を不当に軽減させることを防止する制度ですが、その際に適用される「経済活動基準」^(※)が現在の事業実態に見合うかどうかを研究中です。

(※)現地で事業を行うことに十分な経済合理性があるか否か判断する基準のこと

鈴木さん: 研究テーマは「国外輸出時課税」^(※)の課題です。グローバル化に伴い海外進出する企業が広がる中、日本の税制がどう関わっているのかが注目しました。

(※)一定の日本居住者が株式等を1億円以上保有している場合、国外に輸出する時点においてその資産の含み益に所得税を課すという制度

中村さん: 所得課税と少子化の関係です。日本の大きな課題である少子化の解決に向け、所得税はどうあるべきかを考えています。

八木さん: 現在は消費税について研究していま



が、もしかしら今後、別のテーマを見つければいいかもしれません。

研究において楽しいことと苦しいこと

八木さん: 周囲を気にせず、自分のペースで勉強できることです。税理士試験合格を最優先に勉強する場合、周りの様子が気になってしまいがちですが、学びに打ち込めるのは大学院での研究ならではだと思います。

中村さん: 学生のどんな疑問に対してもすぐに答えられたら、膨大な知識をお持ちの先生方がすぐ側におられて、学びを深められることが楽しいです。

鈴木さん: わかります。自分で考えてどうしても理解できなかった部分で、先生に指導していただけてわかった時は、本当に楽しいですよ。

工藤さん: 理解できなかったことが「わかる!」ようになっていく感覚が楽しいです。入学してしばらくは、文献や論文を理解することで精一杯だったのが、だんだん自分なりの意見が出てくることも、自分の成長を感じて楽しくなります。

天野さん: 私も同じです。最初は点在していた知識がまとまり、積み重なって全体が理解できた時が楽しいし、税理士試験のための勉強にはない感覚だと思います。

石田先生: 逆にこんなはずではなかったか、入学前後で思っていたことと違った点はありますか?

天野さん: 論文執筆について、心のどこかに「2年あれば何とかなるのでは?」という思いがありました。ところが今は、「論文執筆はこんなに大変なのか!」と思い知りました(笑)。

鈴木さん: よくわかります。先輩から大変さは聞いていたので、ある程度の覚悟はしてきましたが、それをはるかに上回る大変さでした。

中村さん: 税理士試験に比べたらまだ取り組みやすいのでは?と思っておりましたが、そんなに簡単ではないですよ。

八木さん: 中村さんと全く同じで、進学してから大変さを痛感しました。

工藤さん: 参考図書は膨大にあるし、発表の準備は大変だし、最初はとにかく憂うつでした。ただ、研究が進むにつれて自然と、苦痛はなくなってきているのが不思議です。

キャンパスライフについて

八木さん: 判例や論文を読み専門性の高い学びを追求できる毎日、とても充実しています。

天野さん: 入学前は、大学院は毎日研究漬けで同級生との交流は少ないのでは?と心配していま

た。実際は良い資料があれば教え合い、レジュメの作り方を相談するなど、仲間で助け合いながら学んでいます。

鈴木さん: 入学前は周囲に馴染めるかどうか不安でした。でも今は、そんな心配をしたこと自体忘れて、楽しく過ごしています。

中村さん: 出産後は自宅にこもって育児をしていたので、環境が大きく異なる二度目の学生生活は、とても楽しく刺激的です。

工藤さん: 同じ目標をめざし、一緒に努力できる仲間がいるのは、ありがたい環境ですよ。

関西大学大学院商学研究科で学ぶ魅力

工藤さん: 切磋琢磨できる仲間の存在と、すごい先生がおられることです。また先生方との距離が非常に近く、疑問は授業後にすぐ聞ける環境が整っています。

中村さん: 大学図書館の資料が充実している点も、関西大学大学院商学研究科の魅力の一つだと思います。

鈴木さん: 同級生の研究内容に触れ、視野が大きくなる点です。発表の度に「こんな考え方もあるのか」と驚き、視野が広がるのは、1人で資格取得の勉強をするのとは大きく異なります。

八木さん: 3つのゼミに所属し、学びの幅を広げながら研究できるTASプログラムがあることです。

天野さん: 関西大学大学院商学研究科は、海外からの留学生とディスカッションできる機会も多々あります。これもTASだからこそできる経験だと思います。



進学前に準備したこと

八木さん: 大学院のHPに掲載されている参考図書の中から、自分で選んだ書籍を読み込みました。

中村さん: 私もそれらの参考図書を読み、過去問を取り寄せて対策をしました。

鈴木さん: 私は参考図書を読み込んだ上で、辻先生の講義を受けました。

工藤さん: 私も参考図書を読んだのですが少し難しかったので、大学院の先輩に「もう少し基礎的な本を教えてください」とお願いし、それを目を通してから、再度、参考図書を読んで試験に挑みました。

天野さん: 皆さんと同じで、参考図書を読み、過去問対策をして受験しました。

TASプログラムに進学を考える後輩へのメッセージ

鈴木さん: 研究には高度な専門知識が必要な

で、不安に思う方もいるかもしれません。しかし関西大学大学院商学研究科は、丁寧に指導くださる素晴らしい先生方のもとで、法学・経済学・会計学など、多方面にわたって知見を深められる環境が整っています。興味がある人はぜひ挑戦してください。

八木さん: TASプログラムは先生方が最大の強みなので、前向きに学ぶ姿勢があれば心配することはないと思います。

天野さん: 判例や条文を読み込んで理解を深める勉強法は、大学院ならではの強みです。2科目が免除されても、試験対策組に負けない知識や勉強量が得られますので、安心して学んでください。

工藤さん: 研究に力ける時間や努力は必要ですが、想像以上に自らが成長する場所です。挑戦して後悔することはないと思いますよ。

中村さん: 私は商学部出身ではないので、ついていけるかどうか不安でしたが、研究を進めるうちに力がついてきます。また座学だけでなく、税理士事務所でのインターンシップもあります。学生の間に税理士事務所現場に触れる体験はなかなかできないと思うので、そういった点でもおすすめします。



石田先生: 修士論文に向けて、後1年です。これからも楽しく、頑張ってください。

辻先生: 皆さんが関西大学大学院商学研究科に進学しては1年ですが、法令に馴染みがない方にとっては、なかなか大変だったのではないのでしょうか。しかしこの座談会を通して、皆さんが大きく成長された様子が、はつきりと伝わってきました。これからも研究や資格取得の勉強に向けて頑張ってください。

齊野先生: 石田先生、辻先生、あたたかいお言葉ありがとうございます。院生の皆さんには、自然体で率直に話していただけたおかげで、充実した座談会になりました。これからも頑張ってください。本日は、ありがとうございました。

